

政務活動費活動報告（視察）

(1) 出席者（会派名・個人名）

会派：夢みらい 夏川嘉一郎 安藤 博 矢吹安子 八木嘉之 赤井康彦 小川喜三郎

(2) 実施日：平成29年7月20日

【1. 調査の目的】

(1) 本市における現状

図書館基本計画では、3館構想であるが議員をはじめハード面の図書館建設の内容が中心であるが、図書館の本来の目的である学校教育としての読書や人づくりひいてはまちづくりが議論されていない現状である。

(2) 本市における課題

図書館を中心としたまちづくりをはじめ、図書の一元管理システムや学校図書室との連携や市民ボランティアの育成など課題が多い。

【2. 調査地選定理由】

(1) 調査項目

全国初の「人とまちを育む読者条例」を制定し、本との出会いと人との出会いを推進している自治体の調査。

(2) 選定地1：

北海道恵庭市 恵庭市立図書館

【3. 調査結果】

(1) 内容

① 平成13年にブックスタート開始、その後ブックスタートプラスを追加。

この事業は、彦根市でも実施しているが、恵庭市は全国に先駆けて実施された。しかも実施後はホローのため、アンケートもとられその結果「ブックスタートプラス」事業として1歳6ヶ月検診時にも追加配布されている。特に検診も大切であるが恵庭市では本の提供が重要とされている。

② 平成15年には学校図書館を市立図書館が所管する。

読書は子どもを成長させる大きな要素をひめているため、所管換えにより市立図書館が学校図書館を一元化された。

③ 平成18年までに全小学校8校と全中学校5校に「専任学校司書」を配置。

司書の雇用はかなり難しかったとのことである。

④ 「子どもの読書活動を支える寄附制度」を導入する。

学校の図書館を充実させるため、市民が〇〇小学校に図書をとの思いで寄附をされると寄附額と同額を市が補正予算を計上し、2倍の額の図書が購入できる制度である。

⑤ 平成19年度から学校図書館配本システム開始される。

具体的には、市立図書館30万冊と学校図書館14万冊をシステムのネットワークを構築し合計44万冊をだれでも借りられる仕組みである。

⑥ 平成25年10月から「まちじゅう図書館」開始。

これは商店やカフェ、事業所などの経営者や店長等が自らのお気に入りの本を展示し自

由に読んでもらえるというシステムであり、店の一つひとつが図書館ということで民間の館長が自ら運営願うものとのこと。市立図書館の廃本も提供することもあるが店側が整備されることが多いらしい。50の図書館ができたが現在は48館とのこと。市としては開設されると市のホームページでのお知らせと「のぼり旗」の提供のみ。

(2) 考察

児童1人当たりの貸し出し冊数は、小学生は年間76冊、中学生では23.3冊であり、大きな成果を出されていた。子どもの変化としては、落ち着きや読書習慣の形成また、集中力の向上に繋がっているとの評価をされていた。こうしたことから学校の生活リズムの形成さらに家庭学習時間の定着には効果が大きいと話されていた。

他に本年4月から図書館の運営に指定管理者制度を導入され、期間は3年間で、東京の業者が落札されたとのこと。

読み聞かせボランティアは、全国的に女性の方のグループが多いが本市では「男声グループ」が中心とのこと。(男の声とのグループ名) ボランティア団体による「朝まで図書館」を年1回開催されており、図書館の本の貸し出し等の業務全てをボランティアがされているとのことで大変驚いた。